

令和6年度

網野学園学校運営協議会だより



第2号（令和7年1月）

網野学園学校運営協議会事務局（網野中学校内）

第2回網野学園学校運営協議会を開催しました。

10月29日（火）第2回学校運営協議会を開催しました。網野学園の子どもたちの様子やボランティアの活用状況について報告した後、3グループに分かれて協議しました。子どもたちの様子を出し合った後で、地域連携の仕方について具体的な意見を出し合いました。3グループとも話が盛り上がり、設定していた時間では足りないくらいでした。地域の方々の子どもたちを大切に想う気持ちが伝わってきました。



学校運営協議会 グループ別協議 ～一部ですがご紹介します。～

【教育委員会】

・京丹後市ではグローバル人材の育成をめざしている。他者とつながる力、探究的な学び、課題解決的な学習を通して、学校のフィールドを離れて経験することは大切なことであり、お力をお借りしたい。

【保育所・子ども園】

・子どものやりたいことを引き出したいと思っている。色んなことに失敗を恐れずにチャレンジしたり、自分で考えたりすることで、自分を高められるようにしていきたい。保育者は、子どもに寄り添って支援をしていくことを大切にしている。

【学校】

・自分たちで気付かせ、課題を設定し、自分たちで良くしていくことを大切にしている。教師は子どもたちの伴走をしながら、見守るようにしている。

【1グループ】

- ・放課後児童クラブでも、子ども同士のつながりが深く、男女の仲が良い。中学生も祭りとかでリードしてくれている。
- ・コロナが落ち着き、いろいろな取組ももどに戻ってきたが、一度途絶えたことをもどに戻すことは難しいこともある。
- ・登校の見守りをしているが、挨拶ができない子もいる。
- ・自分が子どもの時にしてもらったことを、大人になった自分が子どもにしてあげたいという思いがある。地域の中で子どもを叱れる大人になりたい。
- ・祭りの時期に戻ってくる卒業生がある。何か今後のヒントや広がりとして活用できる可能性があるのではないかと。
- ・地域の寄り合いに子どもを巻き込んで意見交換をするのはどうか。大人と子どもが意見交換できるような機会がもてないか。



【2グループ】

- ・親が学校に関わる機会が多く、学校の様子を家庭の話題にできている。また、学校の様子を地域の方が参観する機会も増えた。
- ・授業の中に地域の方が継続して入って支援をしている。各地域の歴史や自然・伝統についても知り、地域を大切にしていきたい。
- ・昔は子ども同士がぶつかり合うことの良さがあった。将来に向けて子ども同士のぶつかり合いも必要ではないか。
- ・学校や社会でも叱られる機会が少なくなっているのではないかと。家庭や地域とのつながりが大切である。



- ・お祭りが好きだから地域が好きという子もいる。子どもの減少傾向に合わせて、地域行事、お祭り等の仕方に工夫が必要である。
- ・地域の自然についても知ってほしい。地域連携に向けて、子どもたちに何かできないだろうか。地域学習を大切にする授業をしてほしい。
- ・祭りは地域がまとまるきっかけになる先人の知恵である。資源回収やお祭りを通して、子どもたちと一緒に地域を回り地域を知ること続けていきたい。
- ・大人同士の挨拶ができてきているだろうか。周りがしなくなるとだんだんとしなくなる。「挨拶ができる町」にしていきたい。
- ・地元が好きで、「地元に戻ってきたい」と思える子どもを育てていきたい。そのための網野学園の取組であってほしい。

【3グループ】

- ・こども園の運動会では、頑張っている姿をたくさん見ることができた。個性が多様化して様々な子がいるが、子どもの特性を踏まえた上で個に応じた支援をしたり、認めたりすることを大切にされていることが伝わってきた。
- ・気になる事があっても自我の確立ができていない子がいる。自分の思いをしっかりともち、自分から仕掛けられる子どもになってほしい。
- ・主体性の解釈が様々になっている。自分の好きなことに没頭はできるが、それ以外は無関心な子がいる。もっと他者への興味をもってほしい。
- ・SNSの影響もあるのか、会話が一方通行になっていないか。子どもが話すと、大人は最後まで聞かずに答えを言っていないか。何気ない話、つまらない話でもいいので親子の会話が大切である。
- ・やりたいことを実現するために、許すだけで何でもできるでは苦労しないし、禁止ばかり、叱るだけでもいけない。許可を求めるために相談をしたり、褒め認めたりしてもらうことが必要ではないか。
- ・親と教師の話す機会はあるのか。親は教師に何を相談していいのかわからず相談ができなかったり、集団の中では意見が出にくかったりすることはないか。子育てについて親同士のつながりができると安定してくる。親・子・地域が、同じ視点で子どもを見ることが大切である。
- ・時代の流れか、「これやろう」と言ってもものってこない子が増えている。保護者に投げかけてものってきてもらいにくい。地域づくりのための仕掛けや地域の中でのつながりをどうするかが難しい。



11月26日(火)に、第2回網野学園合同あいさつ運動を実施しました。

PTAや青少年健全育成会、学校運営協議会、民生児童委員、地域の皆様等、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。第3回も来年度もよろしくお願いいたします。



網野南小学校



網野中学校

<今後の事業予定>

第3回学園合同あいさつ運動
令和7年1月28日(火)

<今後の会議予定>

第3回学校運営協議会
令和7年2月20日(木)



【連絡先等】 網野中学校 TEL：0772-72-1030

FAX：0772-72-1031

メール：amino-jhs@kyoto-be.ne.jp

二次元コードをご活用ください。網野中学校HPでも見ることができます。その他の学園内の取組についても、随時掲載しています。